

題材名「風水害にそなえて」

目 標

- ・ 台風23号の被害を知ることにより災害の恐ろしさに気づくとともに、緊急時にどのように行動したらよいかを知る。

コンピュータを活用する利点

- ・ 児童はパソコンに取り込んだ写真を見ることにより、台風23号の被害状況が理解しやすい。
- ・ 指導者はプレゼンテーションソフトを使用することで、容易に写真を取り込んだり、文字・絵などを自由に表現したりすることができるので、資料作成がしやすい。

授業の流れ

1 3年前の台風23号が押し寄せてきた時の様子を知る。

- ・ 豊岡の街（大開通り）
- ・ 円山川の堤防
- ・ ヘリコプターでの救助の様子
- ・ 避難所の様子
- ・ 八条小学校（運動場・倒れた木）

2 もし、台風がおしよせてきたらどうするか考える。

- ・ テレビを見たり、ゲームをしたりしていたら
- ・ ご飯を食べていたら
- ・ 食事を作っていたら

3 風水害に備え、普段からどんな準備をしておくとういかに考える。

- ・ 非常時の持ち出し袋
- ・ 防災無線を聞く習慣
- ・ 家族で防災会議 等

ICT 活用場面

写真やイラストをパソコンに取り込み、プロジェクターでスクリーンに映し出した。

3年前の台風23号が押し寄せてきた時の様子を知る場面。

- ・ 台風23号の被害のスライド（豊岡の市街地、八条小学校等）台風がおしよせてきたらどうするかを考える場面。
- ・ 豊岡市教育委員会制作「台風23号に係わる防災教育資料」（風水害危険予測シート 「いつもとすこしちがうよ… 何に気をつけますか。」）



成果と課題

対象児童に3年前の水害時について事前調査をしたところ、水害当時のことをあまり覚えていないことが分かったため、被害のスライドを見せ、水害の状況を知らせることにした。児童は、スライドを見ることにより、豊岡市が受けた被害が分かり、日頃から風水害への備えをしておくことの大切さを理解することができた。

視覚からの情報はインパクトが強いので、災害の写真やビデオを取り扱う場合、その内容を十分検討しなければならない。本時でも、水害で恐ろしい体験をした児童にはPTSD（心的外傷後ストレス障害）に配慮する必要があることを授業者で話し合った。

ICT 活用環境等

使用周辺機器	パソコン、プロジェクター、スクリーン
使用ソフト名	Power Point
使用教室	音楽室